

仙台デザイン専門学校
令和3年度 学校関係者評価報告書
(実施日 令和4年5月31日)

令和4年6月

学校法人 北杜学園
仙台デザイン専門学校

1. 「学校関係者評価」の実施方法について

文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえた評価項目に沿って実施・作成した「令和3年度自己点検評価報告書」の結果について、仙台デザイン専門学校に関係の深い業界等の委員より評価をいただきました。

各評価委員には、事前に「自己点検評価報告書」及び「学校評価」に関連する資料等をご覧いただいた上で、ご意見等を聴取いたしました。

本報告書は、各評価委員からいただいたご意見・ご提言を評価項目ごとに要約し、取りまとめております。「令和3年度 自己点検評価報告書」と併せてご覧ください。

貴重なご意見・ご提言は、今後の学校運営や学校教育の場で活かし、本校の教育目標である「デザインする心」を持った有能なる人材育成に努めてまいりたいと存じます。

令和4年6月
学校法人北杜学園
仙台デザイン専門学校
校長 鈴木 一樹

2. 学校関係者評価委員一覧表

氏名	選出区分	職名	備考
和田 冬樹	企業関係者	仙台デザインワークス株式会社 代表取締役社長	外部委員
大泉 由梨	企業関係者	BUCHICO DESIGN 代表	外部委員
北折 整	学識経験者	東北生活文化大学 副学長 美術学部教授	外部委員

3. 基準評価ごとの学校関係者評価・意見

(1) 教育理念・目的

【現状及び課題】

- 教育目標や教育理念、将来像等は学生便覧に掲載し、新入生ガイダンスにおいて学生にしっかりと伝え、指導している。また、保護者に対しても同資料を配布し、本学の概要について周知に努めている。外部への周知については北杜学園ホームページ上に仙台デザイン専門学校として展開しており、更に本校 SNS 等により学生生活や学修成果、イベントに至るまで幅広く告知を行っている。
- 令和元年度よりシラバスのガイドライン作成やシラバスのフォームの刷新を図り、授業計画に活かしている。

【関係者評価・意見】

- 教育目標や理念はすべての根幹となる事項であり、それが学内及び保護者・関係者に周知徹底され、成果につながっていることは最大限の評価に値する。
- 学校における職業教育の特色を明確に提示し、時代に合った人材育成に取り組まれていると感じる。
- 社会との関わり合いにおいて、学校の教育理念や教育目標及び育成人材像などが明確に示されている。

(2) 学校運営

【現状及び課題】

- 学園方針に則り年度目標を定め、就職内定率、資格取得率、退学防止等を設定し、教職員が団結、協力して業務に取り組んでいる。また、シラバスや履修時間を確認し、各項目において自己点検を実施しており、コンプライアンスに努めている。
- 教育活動に関する情報はHP等で適時公開しているが、令和元年度よりシラバス等の情報公開を行っている。
- 具体的な教育内容等については学校案内パンフレット、学校HPを通して関係業界や地域社会及び入学希望者等に向けて最新情報を発信している。
- 学校財務情報、学校自己点検評価、学校関係者評価については文部科学省のガイドライン等に従って、適切に公開している。

【関係者評価・意見】

- 学校の運営が適切に行われており、その状況は公開されている情報から判断できる。新型コロナウイルスの蔓延により不測の事態が頻発する中、時々の対応も正しく行われており、学校運営の強固さがうかがえる。
- シラバスだけでなく、具体的な授業内容や財務情報などが適切かつ明確に公開されている。
- 各種理念に基づいた教育活動を実現するうえで必要となる仕組みや体制が整っている。

(3) 教育活動

【現状及び課題】

- 教育理念、業界ニーズを踏まえた人材育成の観点から、カリキュラムの見直しを行い、必要に応じて整備している。

○授業評価においては学生による授業評価アンケートを毎年実施し、各教員へフィードバックしている。
これにより、授業方法や学生対応、授業資料等の改善等に努めることができ、学生の授業満足度を向上することが出来る。これらのことも踏まえて外部講師による就職ガイダンス等実施している。(対面とリモートにより実施) 企業と連携し就職試験結果を求人先よりフィードバックを受け、学生支援の一助としている。

【関係者評価・意見】

- 教育理念から一貫した教育活動が実行されている。学生の目標と企業側のニーズが目まぐるしく変わる現代において、現在の対応は十分であるが、この動きが今後さらに加速していくことが予測されるため、十分な情報収集と対応を期待している。
- コロナ禍で業界の体制なども大きく様変わりし、またいち早く流行を抑える必要のある業界であるため、常に現場の声を取り入れ、教育に生かしていく必要があると感じる。
- 育成人材像に係るカリキュラムや指導体制が整っている。

(4) 学修成果

【現状及び課題】

- 担任制のため、学生指導、生活指導や面談、相談等にきめ細かく対応できている。保護者との連絡も密に行っており、情報も共有している。
- 経験者が優遇されるデザイン業界の厳しい採用状況に対応するため、就職活動の実践的なカリキュラムとして、1年次に必修科目「就職指導Ⅰ」にて、社会人としてのマナー・心構え・自己分析を行い、2年次には選択科目として「就職指導Ⅱ」で履歴書作成・面接指導等企業対応の指導を実施し就職率向上につなげている。
- 就職内定者の向上を目指すためには、就職担当者、学生及び担任との連携が不可欠であり、今後の担任の指導力に期待する。
- 退学者の中で高等学校までの不登校や生活習慣、精神的特性に社会・業界とのギャップがあり、退学に至るケースが少なくない。その差をどの程度まで埋め、モチベーションを維持しつづけられるかが退学率低減の鍵となる。また、精神的な問題による不登校や退学のケースが増加傾向にあるため、学生相談室をリニューアルし、専門のカウンセラーによる対応に力を入れている。

【関係者評価・意見】

- 学生が持つ資質と素養は千差万別だが、その中で学生一人一人の個性に合わせた対応がなされているため、優秀な人材が多く輩出されている結果に繋がっている。
- 様々な事情、疾患を抱えた学生が増えているので、退学率軽減は難しいのではないかと感じる。向上心のある学生のより一層のサポートに務める必要があると感じる。
- 現代の多様化する学生への就学全般に対する指導が今後ますます難しくなっていくと思われる。

(5) 学生支援

【現状及び課題】

- 各担任、教科担当者が学生本人および保護者と連携し、デザイン関連業界で幅広く活躍できる技術の習

得に励んでいる。また、定期的に出席状況や各教科における成績を保護者に報告、問題があると判断される場合は保護者面談等も実施している。

- 日本学生支援機構奨学金、高等教育の修学支援新制度や寮・アパートの斡旋など、学生への経済面・生活面に対する支援を行うとともに、学内に学生相談室を設け、専門のカウンセラーによるさまざまな悩みに対する相談を行い、精神的な悩みや不安を抱える学生のケアに努めている。
- 職業理解をはじめガイダンス等への参加や教育環境の開放等も実施、中高校生等へのキャリア教育推進にも努めている。
- 社会の動きや就職活動を取り巻く現状認識が低く、就職活動を先送りする傾向が強い学生のため、効果的な現場の声として、内定者講話・OB講話・企業講話・就職相談会など各種就職ガイダンスを開催し、学生の意識改革に継続的に取り組んでいる。

【関係者評価・意見】

- 学生への経済面や生活面へのフォロー体制が整っており、支援が十分行われている。昨今問題となっているメンタル面でのケア体制も整っており、世情に合わせた体制作りは素晴らしい。
- SNSなどの多様化に加え、コロナ禍で学校生活を送ってきたということもあるのか、積極的に教員へ相談やディスカッションなどを求める学生が減ってきているように感じられる中で、専門のカウンセラーなどによる支援などきめ細やかに行っていると感じる。
- 進路や生活全般にわたる支援活動や体制が整っている。

(6) 教育環境

【現状及び課題】

- 職業人を輩出するために、より高度な職業教育、実践教育を目指してパソコンやデザインツールの更なる充実を図る必要がある。ネットワーク環境については各HRに無線LANを配備し利便性の向上に努めている。校内3カ所にリモートでの説明会及び面接等に対応する専用ブースを設置、学生の就職活動に活用している。
- WEB教室のパソコンを増設するなど、教育設備の更なる向上を図っている。
- 学校消防計画及び安全計画などの防災に対する体制が整備されている。

【関係者評価・意見】

- 新型コロナウイルスの蔓延により教育環境も激変したが、その時々での適切な対応がなされており、環境の向上に尽力されていることがうかがえる。ツール類の進化とそれを扱う人間のスキルアップの必要性は今後も続くことが予測されるため、十分な対応を期待している。
- タブレットやPCなどにおいて最新の機器を導入し、授業を行っている。
- 授業を実施するうえで必要となる施設・設備が整備され、安全性も確保されている。

(7) 学生の受入れ募集

【現状及び課題】

- 学校案内やホームページ、学校説明会、模擬授業、その他進学情報誌等に掲載する情報ならびに説明表現については、真実性、公平性、明瞭性を考慮して公開している。また、資格取得実績や就職、卒業生

の活躍等の教育成果についても「個人情報公表に関する同意書」に基づき公開している。

○学納金は、教育内容、学生本人および保護者の負担感を考慮したうえ設定し、募集要項に明記している。

【関係者評価・意見】

- インターネットを介した情報発信や紙資料等において、学校の魅力や得られる技術、入学後の必須・必要事項等が十分に発信・周知されており、希望者は安心して入学できるような環境は整えられている。
- 広報スタッフと連携し、SNSやHPなどを活用して常に新しい情報を発信している。
- 少子化の状況において、適切な募集活動が行われている。

(8) 財務

【現状及び課題】

- 財務に関して、本校は堅調な運営の結果、過去3か年度にわたり、帰属収支差額は黒字で推移しており、安定した財務基盤を有している。また、予算・収支計画は過年度の財務状況に照らして、有効かつ適正に行われている。
- 会計監査については、監事が、理事会及び評議員会に出席し意見を述べ、また、学校法人の業務及び財産の状況について監査し、毎会計年度後、監査報告書を作成し、当該会計年度終了後2ヶ月以内に理事会及び評議員会へ提出している。
- 学園全体として、監事の監査を支援するために、学校法人運営状況の定期報告、公認会計士及び内部監査の担当部署として設置している業務監査室との意見交換、学校法人制度の最新情報の提供などを行っている。

【関係者評価・意見】

- 財務状況は公に公開されており、その内容から盤石な法人運営がなされていることがうかがえる。また監査も適切に行われており、問題はない。
- 適正な財務計画が立てられている。
- 帰属収支差額が黒字で推移しており、安定した財務基盤が築かれている。

(9) 法令等の遵守

【現状及び課題】

- 全教職員は学園が掲げるコンプライアンスの意識をもち、各業務にあたっている。また、定期的に自己評価を行い、日々の業務等における問題点がないか確認・改善に努めている。
- 個人情報保護に関しては、「学校法人北杜学園 個人情報保護規定」に基づき、学園が有する個人情報については、学園プライバシー・ポリシー（個人情報保護方針）に基づく適正な保護の実現を図っており、資格取得実績や就職、在校生・卒業生の活躍等の教育成果等「個人情報公表に関する同意書」による同意を得た上で事実に基づき公開している。

【関係者評価・意見】

- コンプライアンスへの意識改革が全教職員に行き渡っており、十分な体制を整えていることが確認できる。
- 個人情報保護への対策などが周知徹底されていると感じる。
- 教職員に対するコンプライアンス教育が適正に行われている。

(10) 社会貢献・地域貢献

【現状及び課題】

- 本校は、社会に貢献しうるデザインマインドを持った人材育成を目標としており、日々の鍛錬において習得したデザインスキルをもって、社会貢献・地域貢献を目指し、社会活動や地域活動を推奨している。パブリシティを考慮した課題テーマや、各地方自治体や企業・団体等からの依頼に基づくテーマを取り上げるなど幅広く社会のニーズに対応している。
- 企業との連携により、企業主催のデザインコンペの企画に協賛し、授業課題として作品を仕上げ、その作品を出展し実績を上げている。
- 現在、テクノロジーが加速度的に進んでいる中で、学校でデザインを学ぶだけでは足りなくなってきたと思われる。基本的なデザインの知識は大変重要であるが、それに加え新しいメディアやデバイスなどに即座に対応できるように、常に新しい手法を学び続けることが必要とされる。

【関係者評価・意見】

- 目標に掲げられている「社会に貢献しうるデザインマインドを持った人材育成」は、まさに現代では必要不可欠なテーマであり、それを早い段階から取り組まれ、そして成果を上げていることは素晴らしいことである。巣立った人材が学び得た技術をもって「社会への貢献」という成果を上げ続けることができるよう、今後もなお一層の奮励を期待する。
- 外部コンペへの積極的な参加がうかがえる。優秀な作品を多数世に送り出している。
- 社会の課題解決に資する人材の育成が、外部との連携により適切に図られている。

4. 学校関係者評価 総評

- 開校以来半世紀以上に渡り、堅固な教育体制を構築・維持をされ、人材の育成と排出を行われていることに対し敬意と感謝の念に堪えない。
また、新型コロナウイルスの蔓延という未曾有の危機にも、地域の教育機関として完璧な対応をされており、生徒や保護者・学校周辺地域からの信頼も強固なものになったと感じている。
クリエイティブな人材が重要となる今後の社会において、貴校の役割はさらに重要度を増していくと予想されますので、教育機関として更なる向上を期待する。
- コロナウイルス感染対策をしっかりと継続し、教育の質を落とすことなく、学校運営を行っていくことは容易ではない中で、職員同士がしっかりと連携し対処していると感じた。
- 文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づいて自己点検評価が実施され、(1)～(10)の大項目においてすべて適切と評価する。「デザインする心」を有する人材育成を目標に、時々刻々と変化する社会のニーズに即応し、常時自己点検を怠らず、改善に努めていることを評価する。